

宮廷建築家片山東熊の遺した資料

～はがき資料を追って～

建設工学専攻
建築史研究

はら まさひろ
509080-8 原 正彦
指導教員 伊藤 洋子 教授

1. 研究の背景及び目的

明治維新後の開国と共に訪れた近代化の波は、日本に西洋の様式建築をもたらすきっかけとなった。開国後における西洋文化導入の手助けをしたのは、いわゆる「お雇い外国人」達であった。

近代化の始まりにおいては、産業施設に重点が置かれていたが徐々に、日本という国にとっての本格的な様式建築の必要性が増していき、そのような転換期において、明治10年(1877)にジョサイア・コンドルは日本に招かれたのであった。コンドルは、工部大学校の教授として熱心に日本人建築家の育成にあたり、後に日本建築の世界において第一世代と呼ばれる、辰野金吾、片山東熊、曾禰達蔵、佐立七次郎の4名を輩出するのであった。

今回その中の一人、片山東熊の遺した資料が新たに発見されたので、その資料を追うことで、これまで不明確であった片山の交友関係と社会との接点、そして資料の価値と意味を問うことを目的としている。

2. 片山東熊(写真-1)について

嘉永6年(1853)12月20日に長州、萩で産声を上げる。父親は萩藩の微禄の下級武士であり東熊はその4男として産まれ東熊は、討幕の中心的存在となった長州藩として幕末の激動の時代を生きたのであった。兄の湯浅則和や中行たちは、高杉晋作率いる奇兵隊に入隊していた。東熊も12歳になる頃には、元服前の入隊禁止という隊規を違反し入隊する。



写真-1 片山東熊

そして、明治元年の戊辰戦争においては山県有朋率いる討幕軍に加わり出陣を迎えるのであった。明治5年(1872)11月29日に山県有朋は山城屋事件における汚職事件の疑いが書けられ、政治生命を危ぶまれる。しかし、東熊の長兄の湯浅則和と小林安足が罪を被り山県を救ったこともあり、この事件以後、東熊に対して庇護を加え、彼が宮廷建築家としての地位を得る要因を与えたのであった。

片山東熊は、明治6年(1873)8月に初めて生徒募集を行った工学寮に官費生として入学した。明治10年(1877)に工学寮は工部大学校となり、当時、造家学科教授であったコンドルの下で建築を学んだ。明治12年(1879)11月8日に工部大学校を卒業した後は、工部省に入り営繕局7等技手として建築家の道が始まり、建築家としての経験を積み、宮廷建築家として当時日本の建築界を引率する存在となっていくのであった。

3. 資料調査

発見された資料(表-1)は、長年多摩市の富澤家に所蔵されていたものを片山満子氏の元へ返したものである。富澤家とは、江戸初期から連光寺村の名主を代々務め、幕末には新撰組と関係を持ち、明治期以降は明治天皇はじめ皇族方が、行幸、行啓の際に「御小休所」として利用された家である。

また、田邊家とは、片山東熊の妻である鑑子氏の実家である。図-1は片山家と富澤家の関係に田邊家を加えた関係図である。

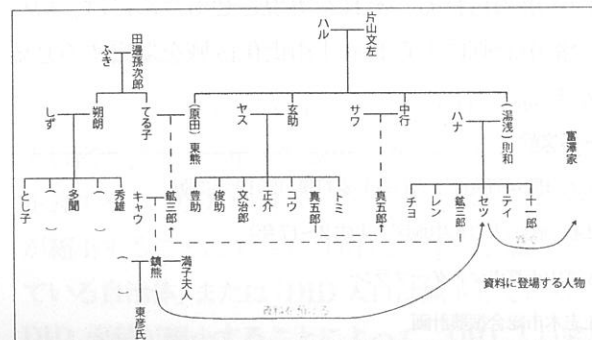


図-1 片山家・田邊家・富澤家・関係家系図

資料調査は、2010年7月24日・25日に片山満子邸にて、同年12月25日、片山東彦邸にて行い。片山の現存作品の調査は、同年9月11日から14日にかけて行なった。

表-1 調査資料リスト

NO	資料名	数量
1	はがき	226枚
2	図面	6枚
3	写真	24枚
4	サンプリング紙	1枚
5	サンプリング紙	11枚
6	サンプリング紙	12枚
7	サンプリング紙	4枚
8	片山のスケッチ・図面と思われる物	2枚
9	建築物の工事中写真	1枚
10	旧帝国奈良博物館/パース	1枚
11	模型写真	2枚
12	田邊秀雄のスケッチと思われる物	1枚
13	皇后陛下御歌	一首(同二枚有)
14	御歌	一首
15	明治/大正天皇皇后陛下御写真帖	1冊
16	伏見桃山御陵工事写真	1冊
17	青山御大葬式場建築記念写真帖	1冊
18	大正十年 〇〇大演習写真	1冊
19	代々木御大葬儀御式場御新宮工事記念写真帖	1冊
20	明治天皇大葬儀写真	1冊
21	メダリオン(モチーフ:片山東熊)	1枚
22	胸像・ブロンズ製(モチーフ:片山東熊)	1体
23	位牌	1柱
24	コンドル博士遺作集	1冊
25	塗り界(第3巻 第5号)	1冊
26	日本ペイント製造株式会社新株主募集規程及び定款等	1紙
27	日本ペイント製造株式会社現在及将来	1冊

総数 307 点

4. 研究方法

- (1) 片山満子邸(東熊の孫娘熊氏夫人)・片山東彦邸(東熊のひ孫)にて資料調査を行なう。(写真撮影、採寸)
- (2) 調査より得られたはがきを整理・解析し、片山東熊と交流のあった人物を特定する。
- (3) 調査より得られた室内調度品や装飾品サンプル、スケッチ図面と現存する建物や写真から比較検討し資料を分類。
- (4) 参考文献を読み込み、片山の建築活動に関与した人物をまとめ・比較する。
- (5) 以上より人物相関図(図-2)を作成する。同時に資料から年表を作成し、片山の建築活動との関係性を考察する。

5. 資料解析結果

5-1. はがき資料とその送り先について
総数226に及ぶはがきは明治41年～大正4年にやり取りされた物である。表2がその概要である。表-2 はがきリスト

記載	資料名	数量	記載	資料名	数量
台北の写真のはがき	3枚	松島の写真のはがき	1枚	松島の写真のはがき	2枚
朝鮮の写真のはがき	15枚	日光遊覧の写真のはがき	2枚	日光遊覧の写真のはがき	2枚
台湾の写真のはがき	6枚	鎌倉名所の写真のはがき	4枚	鎌倉名所の写真のはがき	4枚
場所を未特定の写真のはがき	1枚	沼津名所の写真	2通	沼津名所の写真	2通
ペリーに関する写真のはがき	5枚	年代不明の年賀状	2通	年代不明の年賀状	2通
御大葬儀御式場御新宮工事のはがき	3枚	昭和41年(1908)の年賀状	2通	昭和41年(1908)の年賀状	2通
横新志士追善会記念のはがき	23枚	昭和42年(1909)の年賀状	5通	昭和42年(1909)の年賀状	5通
演劇の写真のはがき	4枚	昭和43年(1910)の年賀状	15通	昭和43年(1910)の年賀状	15通
大徳院記念のはがき	3枚	昭和45年(1912)の年賀状	1通	昭和45年(1912)の年賀状	1通
現前大聖府天宮御本社のはがき	2枚	東熊から子へのはがき	1通	東熊から子へのはがき	1通
出雲大社の写真のはがき	1枚	田辺朝朗からのはがき(年賀状を除く)	9通	田辺朝朗からのはがき(年賀状を除く)	9通
戦艦伊勢のはがき	1枚	田辺秀雄からのはがき(年賀状を除く)	10通	田辺秀雄からのはがき(年賀状を除く)	10通
刺客 塚田傳四郎のはがき	2枚	池田隆からのはがき(年賀状を除く)	3通	池田隆からのはがき(年賀状を除く)	3通
面表のはがき	2枚	新家孝正からのはがき(年賀状を除く)	18通	新家孝正からのはがき(年賀状を除く)	18通
平治川電気株式会社工事	10枚	田辺多聞からのはがき(年賀状を除く)	1通	田辺多聞からのはがき(年賀状を除く)	1通
運道道工場の写真のはがき	1枚	井上貞からのはがき	1通	井上貞からのはがき	1通
佐々木高義氏追善記念のはがき	1枚	大村〇子からのはがき	1通	大村〇子からのはがき	1通
日本女性の写真のはがき	2枚	河辺正夫からのはがき	1通	河辺正夫からのはがき	1通
西洋人女性の写真のはがき	2枚	児玉文雄からのはがき	1通	児玉文雄からのはがき	1通
大日本婦人教育会会場のはがき	1枚	舟橋聖一からのはがき	1通	舟橋聖一からのはがき	1通
滋賀鉄道学校創立十周年記念のはがき	4枚	田辺清吉からのはがき	2通	田辺清吉からのはがき	2通
藤原鎌足公の絵のはがき	1枚	小花冬吉からのはがき	1通	小花冬吉からのはがき	1通
芭蕉翁追善御座りのはがき	1枚	前田恒次郎からのはがき	1通	前田恒次郎からのはがき	1通
美術展覧会出品品のはがき	8枚	堀江次からのはがき	1通	堀江次からのはがき	1通
日本美術協会会館の写真的はがき	1枚	杉田〇子からのはがき	1通	杉田〇子からのはがき	1通
日本美術協会別館の写真的はがき	1枚	藤原からのはがき	1通	藤原からのはがき	1通
官報中社字依神宮の写真的はがき	1枚	大村有〇からのはがき	3通	大村有〇からのはがき	3通
官報中社字依神宮の写真的はがき	1枚	中村三郎	1通	中村三郎	1通
海地(新府)遊覧の写真的はがき	1枚	中野正樹	2通	中野正樹	2通
豊後血の池主(遊覧)記念のはがき	2枚	南一	3通	南一	3通
播磨養子清の写真的はがき	2枚	齊藤	1通	齊藤	1通
養子公園の写真的はがき	1枚	その他	12通	その他	12通
関防洲の写真的はがき	3枚				

5-2. 図面について(資料No.2)

6枚の図面(表-3)が発見された。既往研究において東熊が赤坂離宮設計の参考作品はこれまで不明確であったが今回の調査でロシア、サンクトペテルブルグのWinter Palaceが参考作品の一つとして確定となった。

表-3 図面資料

図面名
Winter Palace 配置図
Winter Palace 1階平面図
Winter Palace 2階平面図
御車寄受附之図
台湾総督府〇舎
武家之許

5-3. 写真について(資料No.3)

24枚の写真のほとんどは、参考作品として集められた、複数の会社から出版された既製品である事がわかる。その他には、部下の新家孝正のインド訪問の際の写真助手として随行した富本が撮影したラクダの写真等も含まれている。

5-4. サンプル帳について

(資料No.4～7)

4種類のサンプルが確認され、その中でも壁紙のサンプル(写真-2)は興味深い物がある。アーツ・アンド・クラフツのメンバーの一人Walter Craneによってデザインされたものが発見された。

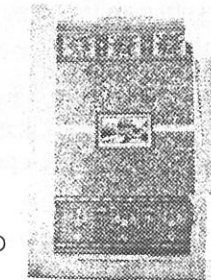


写真-2 壁紙資料

6. 新家孝正・池田稔・田邊朝朗・田邊秀雄について

6-1. 新家孝正について

新家は表慶館の現場監督を務め、設計業務にも携わっていたと言われている。明治42年(1909)には日本大博覧会の調査の為、欧米各国を視察しており、今回発見された資料の中に視察先から18通ものはがきを送っている。

6-2. 池田稔について

池田は明治35年(1902)に東宮御所造営局設計課勤務を嘱託され、片山の下で勤務した後に日本大博覧会技師となり、アラスカ、ユーコン太平洋博覧会の日本館を設計しつつ、日本大博覧会の視察に廻り。視察先から3通のはがきを送っている。また、シカゴ博覧会をデザインしたバーナム氏に面会した事をはがきの中で報告している。

6-3. 田邊朝朗について

朝朗は、大正2年(1913)に土木界のパイオニアとして土木に関する教育事務の視察及び、万国道路会議出席の為に、欧米各国へ出張しており、視察先から6通のはがきが東熊宛に届いている。はがきの中には消印の無い物もあり、それらは土産として手渡されたと推測される。

6-4. 田邊秀雄について

田邊秀雄は、朝朗の長男で片山の甥にあたる。東熊の妻、鑑子宛に9通、東熊と息子の鮎三郎宛に1通のはがきを送っている。どれも、日常生活や旅行の話などで、中には伊藤忠と男体山を登った話などもある。秀才であった秀雄は東京大学在学中に亡くなっているが、はがき帳の最後に秀雄のスケッチが発見され、志半ばで倒れた建築家の卵の貴重な資料が発見された。

7. 日本大博覧会と明治天皇葬場殿について

7-1. 日本大博覧会背景

日露戦争の勝利を記念した日本での万博開催が建議されたのをきっかけとして、政府は明治45年(1912)東京での大博覧会を決定し、博覧会のコンペが開催された。しかし、明治天皇崩御の為此の博覧会は中止となるのであった。

7-2. 片山との関係

片山は、農商務省より日本大博覧会工事計画調査委員及び審査委員の嘱託されている。このコンペ等は、片山が指導し内匠寮で、片山の信頼を得た技師の吉武東里が受賞した。

7-3. 敷地

明治天皇葬場殿は日本大博覧会敷地の一部で行なわれた。どのような経緯でこの敷地となったかは今後の課題である。

8. 結

発見された新資料から、片山の交友関係と当時の社会を垣間見ることができ、また建築写真等は、後進の教育に使ったと言われる貴重な資料かもしれない。この資料が内匠寮関係者が多数コンペを受賞していく糧となったのであろう。片山の交友関係からも、建築という行為が社会的な活動であるという事が改めてわかる貴重な資料である。

参考文献
・小野木重勝, 1979, 日本建築「日本の建築」[明治大正昭和]2 様式の礎, 三省堂
・太田博太郎監修, 1999「日本建築様式史」, 美術出版社
・鈴木博之監修, 2006「皇室建築-内匠寮の人と作品」
・池田稔, 1909「建築雑誌」米園「ジャトル」博覧会日本陳列館新築工事仕様書, 社団法人建築学会

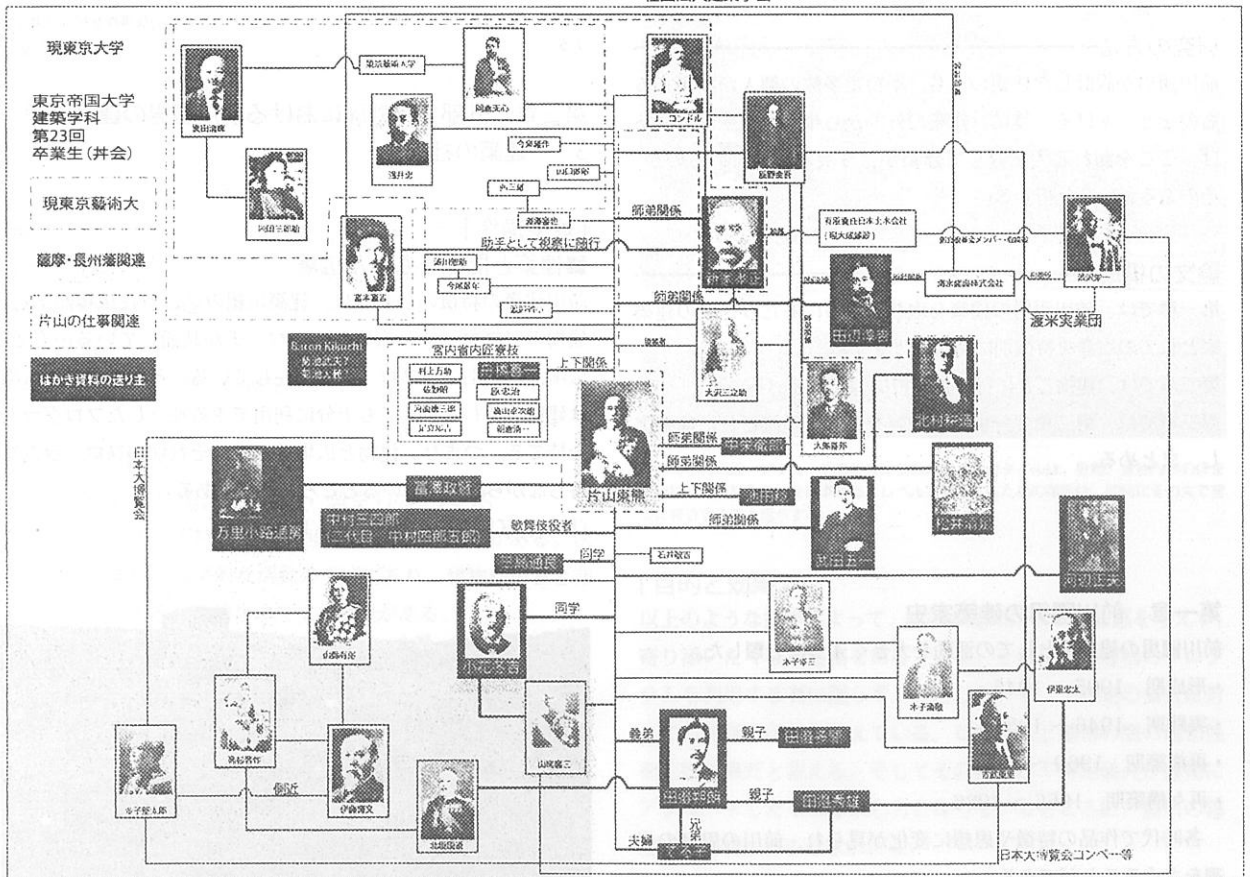


図-2 片山東熊を中心とした人物相関図